回内柴正人旗少年少女柔道大会



内柴選手、鈴木選手、小野選手を 子どもたちが大歓声で迎えました

合いました。 ました。 周囲からは盛んに応援の声が飛び交っていや、大人顔負けの迫力ある中学生の試合に、まだあどけない小学生たちの真剣勝負

また、内柴選手、鈴木桂治選手、小野卓志選手による柔道教室も開催され、会場は大変の得意技を披露。丁寧な解説と指導が行なの神意技を披露。丁寧な解説と指導が行なの本麗な技の実演に、子どもたちは身を乗り出して見つめていました。

世 未来のメ ダ ij

目 指

10月25日、ヴィーブルで第1回内柴正人旗少年少女柔道大会が行なわれました。小・中学生を対象にした。小・中学生を対象にが参加し、内柴選手や市長が参加し、内柴選手や市長



りりしい表情の参加者

白熱した試合が 見られました

合志市市民大学

内容に、受講者は熱心に耳を傾



興味深げに話を聞く受講者

式のあとは、さっそく第1回目 では、から私を守る~心を軽く でで学生の力に、大学で学生の力 でなわれました。大学で学生の力 でなわれました。大学で学生の力 でなわれました。大学で学生の力 な話題を取り を高めてもらいたい」と受講者を大住市長は「市民に教養と知識 歓迎するあいさつを述べました。 ありました。 ユーモアを交えた分かりやす話題を取り上げて話されましつ小原さんは、日常生活の身近



あいさつする大住市長

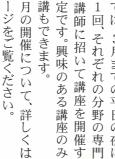


分かりやすく話す小原准教授

教養と 知識 習

性別を問わず、幅広い層の参加が席。若者から高齢者まで、年齢やした。式には82人の受講者が出した。式には82人の受講者が出り月33日、ヴィーブルで合志市

市では、3月までの平日の夜に毎月1回、それぞれの分野の専門家を講師に招いて講座を開催する予定です。興味のある講座のみの受講もできます。





勿まどうしますか?」など、臨場感のあらなど、状況に応じた対応を訓練しまが幼児の場合や重い症状が見られる場が幼児の場合や重い症状が見られる場また、さまざまな事例を想定し、患者差を職員かを
まし、こまでまる。

る質問が出ていました。 物はどうしますか?」など、臨場感の

炊き出しの豚汁で一息



を目的として、発熱外来運営の実地訓場合に、被害を最小限にとどめることがまん延し、市民に健康危機が生じたの重症化率の高い新型インフルエンザの和あい館では、市内で鳥由来など

練を実施しました。

物干しざおと毛布を使った 簡易担架の実演

防災組織への参加を呼びかけ 者は幼児から高齢者までさまざまです。

かは予測できません。

総合防災訓練では、市民の防災意識

や台風による風水害は、本市でも発生近年多い梅雨時期の突発的な集中豪雨

しないとも限らず、地震がいつ起こる

災害が少ない地域といえます。しかし、本市は大きな川や山がなく、比較的

は、子どもたちが行列をつくり、体験しのは、はしご車の搭乗体験でした。地上のは、はしご車の搭乗体験でした。地上があり、とりわけ市民の目を引いたが連合消防本部や大津警察署からも参域連合消防本部や大津警察署からも参 ていました。

今年は須屋・南須屋・南陽の3区を対象関する訓練を毎年行なっています。 の向上を目指し、災害発生時の対応に

月8日に須屋市民センターで実

ンザ流行時の発熱外来訓練を行ないまてとなる市職員による新型インフルエ同時にふれあい館では、県内で初め

こある身近な道具で防災グッズが作れローソクの作り方です。災害時に家庭職員が実演したのは、簡易担架や簡易家庭でもできる防災知識として、市ていました ることを説明しました。にある身近な道具で防災グ 応急手当や心肺蘇生法など熱心た、体育館では救急法訓練が行な

元住民の参加で行なわれた炊き出し訓石住民の参加で行なわれた炊き出し訓昼近くなると、婦人防火クラブと地昼近くなると、婦人防火クラブと地また、体育館では救急法訓練が行なまた、体育館では救急法訓練が行な 食事を味わいました。加者は災害時を想定しながら、 練でおにぎりと豚汁がふるまわれ、 、 温 か い参

発熱外来の実地訓練

理訓練

で助け合う体制づくりが重要」と自主えた市の取り組みに加え、互いに地域大住市長はあいさつの中で「災害に備 約700人が避難してきました。参加生した、という想定で対象地区の市民マグニチュード6・5の大地震が発





はしご車の搭乗体験



消防団の放水訓練



参加した市民 後ろには消防団が整列

ごまざまな危

災訓